

# 京都の小学校の歴史

## 番組小学校の創設

明治維新後、都が東京へ移ることとなり、京の町は、深刻な危機を迎えました。

京都の町衆は、京都の再興は人づくりにあると考え、早くも明治2年に町の区分であった番組を単位として、64の小学校を創設しました。

この番組小学校こそが、わが国の近代的学校教育制度のさきがけとなったのです。とくにそれは、はじめから一般市民を対象に構想されたものでありました。

## 学制の発布

明治5年に「学制」が公布され、全国的に学校建設が始まったその年、福沢諭吉は、「京都学校の記」に次のように述べています。

「京都の学校は明治2年より基を開きしものにて、……小学校と名くるもの64所あり。市中を64区に分て学校の区分となせしは、彼の西洋にて所謂（※）スクール・ヂストリクトならん。」

このように、番組という独特の学区制度を発足させていた京都では、この「学制」の趣旨に合わせて、番組をそのまま新学区としました。

（※）スクール・ヂストリクト：直訳どおり「学区」のこと。アメリカにおける地方教育行政上の単位となる区域で、住民代表による教育委員会が設けられ、住民自治による学校運営が行われた。

## 国民学校令の施行

昭和16年4月からは「小学校」の名称が「国民学校」と改められ、学区財産（小学校の土地・建物等）が京都市へ移管（寄付）されました。

## 戦後の学校制度の改革

昭和22年4月からは、6・3・3・4の新しい学校制度となり、明治2年創立の小学校の内12校が中学校になりました。

## 学区民に支えられてきた小学校

創設から今日まで、京都の小学校は、学区の方々のご協力を得て優れた教育環境を維持してきました。

子どもたちを想い、教育環境の充実に向けた学区民挙げての協力・支援は、京都の教育を支える大きな力となってきました。